

チョーライ病院向け病院運営・ 管理能力向上支援プロジェクト

2019年5月

1. 町田二郎医師によるクリニカルパス運営指導

患者安全/看護管理 森山潤

3月11日～13日にかけて、町田二郎医師(済生会熊本病院副院長)がクリニカルパスの運営指導を目的に来訪しました。今回が2回目の訪問になります。

チョーライ病院では、2018年12月にThao副院長をリーダーとするクリニカルパスチームが設置されました。町田二郎専門家は、「クリニカルパスを用いたKAIZEN」をテーマとした講義やクリニカルパスを作成する医師に対して個別指導を実施しました。

ベトナム保健省の通達第46号/2018/TT-BYTでは、2030年までにすべての医療機関が電子カルテを導入しなければならないと規定しています。そのため、将来の電子カルテへのクリニカルパス導入も視野に入れて、クリニカルパスを作成しています。



クリニカルパスを用いたKAIZEN事例を紹介



クリニカルパス作成個別指導

2. 忽那賢志短期専門家による抗菌薬適正使用ガイドライン改訂作業、講義の実施

院内感染対策/看護管理 黒須 一見



熱帯病科での講義の様子

忽那賢志(くつな さとし)短期専門家(国立国際医療研究センター病院感染症医師)が来訪し、チョーライ病院における抗菌薬の適正使用についての指導を行いました。同専門家は派遣期間中、チョーライ病院の抗菌薬ガイドライン改訂作業について、関連部署と情報交換し、現状確認を行いました。また、抗菌薬適正使用に関する日本の最新状況について、熱帯病科の医師へ講義を行いました。同専門家の派遣は今回で4回目であり、本年もあと1回派遣を行う予定です。

3. 第二回感染管理研修会を実施 ～感染対策担当者(ICP)を養成～

院内感染対策/看護管理 黒須 一見

チョーライ病院では感染対策の強化のため、今後5年間で約40名の感染対策担当者(Infection Control Practitioner:ICP)を配置することを計画しています。2018年6月に第一回ICP22名が誕生し、手指衛生のモニタリングや環境ラウンドなどの感染管理活動を展開しています。

今般、2月21日～4月2日に全6回シリーズで第二回感染管理研修会を開催し、38名のICP候補者が、ICPの役割や手指衛生、人工呼吸器関連肺炎予防策、手術部位感染対策等について学んだほか、JICA専門家からは日本での感染対策の紹介やアクションプラン作成方法についての講義を行いました。また、各部署の院内感染に関する問題点を抽出してアクションプランを作成し、最終回の4月2日には全員が受講証を受け取りました。今後、ICPとして先輩ICPとともに活動していきます。



新たなICPメンバー

4. アジア太平洋感染制御学会国際学会(APSIC)の参加

院内感染対策/看護管理 黒須 一見



オープニングセレモニーで挨拶するDr.Thu

3月19～22日、ダナン市において「第9回アジア太平洋・感染制御会議(APSIC 2019)」が開催されました。本学会は、チョーライ病院前感染制御部長のLe Anh Ti Thu医師が大会長を務められました。

参加者は1,200名ほどで、ベトナム、シンガポール、インドネシア、マレーシアなどの東南アジアのほか、オーストラリア、インド、韓国、台湾、日本からも多くの参加者がありました。感染管理で世界的に著名な先生方が多数講演され、最新の情報を得られたとともに、口頭発表が38題、ポスター発表は190題であり、活発な情報交換が行われました。JICA専門家も「日本の感染管理担当者の役割とベトナムでの活動」について講演を行いました。次回は2021年にシンガポールでの開催が予定されています。



黒須専門家の発表

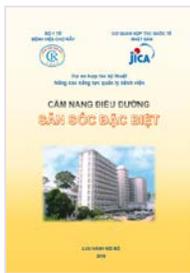
5. 検体採取マニュアル、超音波テキスト、ICU看護テキスト、透析テキストの作成

プロジェクトでは下位病院への教育用テキストや病院内で活用されるハンドブック等の作成を支援しています。

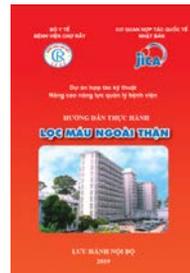
これらの資料が現場で活用されることを期待しています。



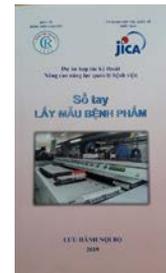
超音波テキスト



ICU看護テキスト
(6月完成予定)



透析テキスト
(6月完成予定)



検体採取
ハンドブック